

<花・実・花>ネムは今年も6月中ごろに花を咲かせ豆の莢をしっかりと付けています。ところが8月末から再び花を付けだしました。サクラやウメが季節外れにぽつっと花を付ける“狂い咲き”は時々見られますが、ネムの“狂い咲き”はSHCで初めてのことでしょう。まして木全体に実のあるところに花が咲く姿はあまり目にしません。キュウリやナスでは花と実の同居は当たり前ですが。ところで“狂い咲き”は食害や気候変動に対する植物の防御反応のようですね。



<紅白>秋雨の時期になりどこかしこで俄かにキノコが顔を出してきました。中には食べられそうなものもあるのですが食い意地が張っていてもちょっと手が出ません。大きさは1cmに満たないものから笠の径が20cmを越えるものまでそして色も千差万別のキノコたちです。そんな中とりわけスッキリとした色のキノコを見つけました。どちらも高さ数センチの小さなもので、調べたところ赤いのが“ベニヒガサ”で真っ白なのが“シロヒメホウキタケ”のようです。ところできのこは太古の昔から食され“くさびら”とも言い、これは古典狂言の演目にもあります(注)。<くさびら>きのこは“木の子”でシイタケなど木に育つもの、くさびらはマツタケなど土中から生えるものと昔はされていたようです。狂言の“くさびら”は「庭に生えてきた人ほどもあるきのこを加持祈祷で退治しようとする山伏が逆にきのこ達に追い出される」というとてもおもしろい話で子供たちにも人気があるようです。能の演目「葵上(あおいのうえ)」のパロディー版とも言われています。



<古代オリエント>キャンパスには周りとはあまりそぐわないところに一本の大きな“ザクロ”の木があります。初夏には赤い花を沢山咲かせるのですが実はあまり付けません。今年も小さめの実を一つ、まだ弾けてはいませんが。ザクロのルーツはメソポタミアという説が有力でそこから遥か昔に全世界に広まったようです。「千夜一夜物語」の



「柘榴(ざくろ)の花」の話も「さもありなん」でしょう。日本では「鬼子母神」の話に登場します。赤く透き通った粒とその甘酸っぱい味は独特です。いろんな部位が薬用になり、とりわけ根皮は条虫駆除の薬“石榴根皮”として知られています。



<色鮮やか>熱帯雨林と違いわれわれの周りにはチョウやトンボを除くと色鮮やかな生き物はあまり見られません。その例外の一つが“ヤマカガシ”でしょうか。水場を好むヘビでビオトープに生えているヤナギの目の前の枝に“赤黄黒白の斑模様”の姿を見つけました。このヘビは毒が強いと最近また言われています。

(文と写真：松本正勝)